

解答

- 問一 「冷たい」ぼくたち三人と違い、「心やさしい」と周りから思われている人たちはジュンの葬式で泣いていたのににもかかわらず、翌日にはジュンを話題にすることもなく、陽気にふるまう姿すらあり、ジュンを忘れてしまっているかのようだ。そのような態度は到底「心やさしい」とは言えず、偽りのやさしさであると皮肉を込めて言いたかったから。
- 問二 よい子が早死にしてしまうという大人の理屈に納得がいらず、悪い子だったからばちがあたったと考えるほうが、ぼくたちにとっては自然だった。そこで、ジュンの早死にの原因はジュンが悪い子だったからではないかと仮説をたてた。ジュンの欠点を挙げることで早死にの理由を見つけ、気持ちの整理をつけたかったから。
- 問三 めだたないジュンのことを思い出すこと自体が困難であるのに、悪いところを思い出すとなると大変な苦勞であった。それでもジュンの死んだ理由を見つけようと夜遅くまで懸命に考え、寝不足になってしまったから。
- 問四 中山君が期末テストで得意科目である社会を失敗してしまったのは、奥村君の死のショックから立ち直れず、奥村君のことをずっと考えていたために勉強が手につかなかったことが原因なのだろう。奥村君のことを考えるのは彼もうれしいだろうが、そのために勉強できないとなれば彼は喜ばないだろうという話。
- 問五 ジュンの葬式で泣いていたと思ったら翌日にはジュンの死を忘れたかのように笑っているミーコの薄情な態度を不愉快だと感じていた。それなのに、ミーコのことを可愛いと思うほどジュンの死に慣れてしまったところ。
- 問六 自分たちも大人たちと同じように、理由のないことにも理由を求めて、無理に納得しようとしていただけであった。ものごとにはすべて理由があるわけではなく、ジュンの死にも理由をつける必要はないということ。
- 問七 勇〔んで〕 積極的 目標 難点 演〔じて〕 秘密 見当〔はずれ〕

解説

- 問一 傍線中の「ぼくたち以外の」という表現に注目し、その人々がジュンの死後にどのような態度であったのかを読み取りましょう。葬式では号泣していたにもかかわらず、アイドル歌手の新曲を得意げに披露したり、ジュンのことを忘れないと涙ながらに約束したのに、翌日にはジュンの話をしなくなったり、「心やさしい」人々の態度とは言えません。そんなうわべだけの「やさしさ」に違和感を覚える「ぼくたち」の気持ちがかぎかっこ（「 」）という強調表現に表れています。
- 問二 「ぼくたち」は「どうしてジュンだったのだろう」とクラスメイトの突然の病死に戸惑いを感じます。大人たちは「いい子だから早く死んだ」と言いますが、「ぼくたち」はその理屈に納得がいらず、逆に「悪い子だったからばちがあたった」と考える方が自然だと感じます。なんとか自分たちの納得のいく形でジュンの死を受け入れようと考えたのです。そこで、「ジュンの悪いところ」を見つけようと考えました。
- 問三 傍線中「次の日、～目を赤くして～」とありますので、その原因は前日にあります。前日に「ぼくたち」はジュンの悪いところを思い出してくるという「宿題」を家に持って帰ります。しかし「ぼく」はその宿題がなかなかかどりませんでした。「ぼく」だけでなく、「智昭」も「祐」も同じ状況であったことは傍線中からわかります。「ぼく」に限った内容でなく、三人に共通した表現でまとめてみましょう。
- 問四 「話をつくって」とあることから、坂崎先生のことばは事実と異なり、すっかり誤解をしているということです。そこで先生の会話文に注目しましょう。しかし、会話文は抽象的な表現で書かれていますので、具体的にまとめ上げることを心がけましょう。
- 問五 傍線を含む一文を読むと、ミーコに恋心を抱いている自分に腹を立てていることがわかります。問一でもふれたように、葬式の翌日にみんなの態度が急変したことに「ぼく」は不愉快な思いをしています。そんな思いを抱いたにもかかわらず、今はミーコを可愛いと思ってしまうのです。また、傍線の二行前に「それから」という添加の接続語にも注目してみましょう。さらには四行前にもありますね。先生の誤解をきっかけに自分の最近の生活をふり返って、自分がジュンのことばかり考えているわけではないことに気づきます。ジュンの死でさんざん泣いていたのに翌日にはジュンを忘れてしまったかのように日常を過ごしている人々に対して嫌悪感を抱いていた。その自分も、実は同じくジュンの存在を忘れかけているのではないか、ジュンの死に対して慣れてしまったのではないかと自責の念にかられている気持ちにも留意してみましょう。
- 問六 (A)「大人って～」の大人とは具体的にだれを指すでしょう。「ぼく」の成績に関して誤解をしている坂崎先生、智昭の転倒に関して理屈をつける母親、離婚した理由をくどくどと語る「ぼく」の母親となるでしょう。それに加えて、「いい子だから早く死ぬ」とジュンの早死にに理由をつけていた大人たちもいましたね。その大人たちの理由に納得がいらず、なんとかジュンの早死にに、自分たちなりの納得できる理屈をつけようと「宿題」にまでしてジュンの死の理由を見出そうとしていました。結局、自分たちがしていたことは「何でも理由をつけないと受け入れられない」大人と同じであったことにここで気づいたのです。「ぼくたち」の成長が読み取れる部分ですね。